# ミッション・ポッシブル

## Flamenco2030の未来戦略 後編

西田昌市（Flamenco2030管理人） 対談 小山雄二（月刊パセオフラメンコ編集長）

### 導線は中野スリリングナイト

**小山**　去年の春だったかな。管理人と中野でサシで呑んでたとき、「この店広いし、フラメンコのツワモノたちと座敷で呑んだら面白えだろうなあ」って思いつきでオレが云うと、「集合かけてください、僕勘定持ちますから」ってすかさず君が反応して、みんな忙しいのにすぐさま実現したよな。

**西田**　はい(笑)いい呑み会でしたね。

**小山**　あのとき落ち込み気味のフラメンコ界をどう打開するかっていう話になって、場をほぐしてみんなをリラックスさせるために佐藤浩希がこう云ったんだな。「表側にガデスが居て、一方のプロデュース側にサウラ監督が居たから、フラメンコは国際的にブレイクしたんだよ。片方だけじゃダメ、両方がしっかり動かないとすそ野は広がらないよー、俺も命張って頑張るからさー、小山もさー、西田もさー、もっとしっかりしろよー、もっと頑張ってくれよーーー！」

**西田**　(笑)佐藤さん、よくぞ叫んでくださいました、さすがだったです。

**小山**　(笑)うん。老若男女を問わず、云いたいこと云い合える環境は悪くないし、こういう刺激がこの先何かを産み出す原動力になるって思ったよ。

**西田**　僕もです。アーティストだけじゃなくて、もっと周辺がしっかり踏み込まなくちゃダメなんだって。あのときの浩希さんの雄叫びが、2030プロジェクト立ち上げの遠因のひとつになっているかも知れませんね。

**小山**　ああ、あの超アバウトな布石からの流れが2030とつながったのかもしれない、と思って話題にしてみたんだよ。浩希もすんなりWEBフェスの実行委員長を引き受けて、フェス用にあの歴史的プロモーションビデオ作ってくれたしなあ(笑)大口叩く以上にやるべきことをちゃんとやる。

**西田**　三枝雄輔さんとのダブル実行委員長、お二人のビデオメッセージはフェス開催のもの凄い追い風になってくれました。ああいう呑み会はいいですね、楽しいし、いい刺激になってくれます。少しずつ輪を広げながら、これからも定期的にやりましょう。

### 第二回WEBフェスは？

**小山**　さて、みんな注目してる第二回WEBフェスの具体案に話を戻そう。

**西田**　先ほどの小山さんの「構成・編集、何でもアリの3分」が有力ですね。

**小山**　ああ、「何でもアリ！」のお祭り案か。「フラメンコWEBフェスティバル」っていう主旨だけは充分了解してもらった上で、出演者の編成も照明も音源も編集も何でもオッケー。

**西田**　不自由と向き合ったのが初回ですが、二回目はまったく自由にやっていただく。普通の視聴者の方々にも、大きな制約のあった初回以上に楽しんでもらえる企画になりますね。フラメンコを知らない人たちに喜んでいただくのがすそ野を広げるってことですから、この何でもアリ企画は、むしろ毎年固定でいいんじゃないでしょうか。

**小山**　じゃあ、最終的にはスタッフ全体の会議で決定するとして、暫定案そ

中野スリリングナイト2019。左から森田志保、西田昌市、小山雄二、鈴木眞澄、平富恵、鈴木敬子、エンリケ坂井、入交恒子、佐藤浩希、大沼由紀。撮影は井口由美子

の1はこれで行こうか。で、昌ちゃん、時期はどうする？　それと、来年2021年はWEBフェスを何回出来るかの見通しも立てておかないとな。

**西田**　現在の戦力だとマックスで年3回程度だと思うんです。ボランティアスタッフが増えて戦力的にもっと充実してくれば、2チーム制にして季節ごとの年4回開催っていうのも見えて来ますが、さしあたり来年は2回から3回で構想してみてはどうでしょう。

**小山**　そうすると開催時期は例えば、年2回なら4月・10月の半年おき。年3回なら3月・7月・11月の4ヶ月おきとか。

**西田**　そんな感じですね。「何でもアリ」の企画は固定するとして、何年か先には実現したい劇場型のコンクールの布石になるような、本格的な企画の初回も来年中に組み入れたいですね。

**小山**　ああ、例の本格重賞レース的な企画か。ただ、そりゃ選考方法でかなり手こずることになる。何か具体的な構想はあるの？

**西田**　はい、まだ全然アバウトですけど、公平性や透明性からの逆算で考えるのがいいと思います。

**小山**　なるほど、例えば？

**西田**　プロでも関係者でも愛好家でも、実名とプロフィールを公表して下さる方に選考委員をお願いします。基本立候補で人数は50名くらいのイメージです。もちろん採点内容も選考理由も全部公表していただきます。

**小山**　へーっ、そりゃ凄いな、大胆だけどひとつの本筋だ。そのやり方なら透明性と公平性はかなり保証されるし。採点表の詳細はWEBにもパセオ本誌にも掲載しよう。

**西田**　重量感のある顕彰イベントにしたいです。アリですかね、これ？

**小山**　アリだな、おれは大賛成だよ。選考基準を筆頭に、いろいろ事前解決しなきゃならない問題は多いけど、先を想えば、その解決プロセスから学べることは大きいよ。とにかく三年くらい続けてやってみる価値はある。

**西田**　じゃあ、「何でもアリ」とこの「重賞レース」は、僕たちの暫定案ということで全体会議にかけましょう。で、もう一本やるかどうか？　これはどうしましょうか。

**小山**　そこは内容も含めてスタッフ会議で結論出すってのはどうだろう。

**西田**　賛成です。じゃあ続きは2030プロジェクト会議で詰めましょう。

## ミッション・ポッシブル

**小山**　さてここで、クドいようでも俺たち裏方自身が先々迷うことのないように「Flamenco2030」のミッションを明快にしておこうか。

**西田**　はい、このご時世ですから、もう建前はいらないので、改めて本音で整理したいです。まず、何を置いても最大の目的は、いつでも現在進行形で「フラメンコのすそ野を広げていく」こと。仰るようにこのことはクドいくらいに自覚したいです。これが2030の最大ミッションだとしっかり固定することで、勇気をもっていろんな新しいチャレンジに取り組めますから。

**小山**　うん、すそ野が広がることは必ず皆のプラスにつながることなんだけど、何か動けば多かれ少なかれ必ず横槍は入るから、あらかじめブレないヴィジョンはどうしたって必要だ。

**西田**　ヴィジョンと戦略がしっかりしていれば、先々メンバーが入れ替わってもそのヴィジョンは未来に継承できますから。それと妨害にメゲないためには、鈍感力だけでは足りなくて、裏方側にもしかるべき整備が必要です。すそ野を広げるためには息長く「公平でありクリアである」、この二つがポイントだと僕は考えてます。

**小山**　ああ、初回WEBフェスでも、君があきらめなかったその「公平」「クリア」の二大戦略がほとんどの問題解決のコンパスになってくれたよね

**西田**　はい。それと、属人化しない。

**小山**　んっ？

**西田**　つまり独裁化させない、そこに利権を持たせない、とかですね。人間も組織も、どうしたって適度の新陳代謝は必要ですから。任期制もなくリーダーの独裁が進めば、メンバーが自発的に考えることをしなくなりますね。

**小山**　うん、そしてメンバーが何も云わなかったり何もしないでいると、やむを得ずリーダーは独裁に走る逆の構造もある。だから、そこに生じやすい相乗的な悪循環をあらかじめ断ってしまおうと。

**西田**　はい、そういう悪循環が生まれないような、例えば任期制のようなシステム創りがあらかじめ必要だと思うんです。僕自身もリーダー的役割は最長で5年だと思ってます。

**小山**　おいおい「2030」なんだから、最長2030年まではやってくれよ。おれも決定権のない相談役なら、実質的にお役に立てる内はやるからさ。それまでにやれそうな若い人材が出て来たらすかさずバトンタッチして、君が相談役をやればいいんだよ。

**西田**　はい(笑)前向きに考えます。

任期制を含め、それらを最もシンプルに要約する二大コンセプト「公平」「クリア」こそ2030プロジェクトの運営組織の在り方だと思うんですが、同時にそれは2030が運営するイベントすべてに反映すべき戦略なんじゃないかって思うんです。

## 組織も運営も「公平＆クリア」

**西田**　例えばWEBフェスというのは、それを好感度に開催することで多くの方々の注目を集め、出場される方はお金をかけずにいろんな人たちに評価され、そしてフラメンコ界は新しい人材を発掘できるっていう循環が生まれます。そういう循環メリットは、フラメンコの未来創りに絶対必要不可欠じゃないかって。ただし、そういう状態は簡単にはキープできない。

**小山**　組織運営同様、イベント運営もそこで公平さやクリアさを欠いてしまうと、やがて皆離れていってしまう。

**西田**　はい、やる以上はそこはセットで考えないと続いて行かないです、積み上げが利かないです。

**小山**　やはりヴィジョンに共鳴してくれる人材の質と量だな。それと有能なスタッフたちを渋滞させないマネジメントの技術。

**西田**　さっきの繰り返しになりますが、最終的には人材に尽きます。フラメンコはライフワークだけど、別に仕事は持っている、でも何かフラメンコのお役に立ちたい。それぞれに高いスキル

を持ったそういう方々を、これからもどんどん巻き込んでいきたいです。だから絶対に閉鎖的になってはいけないですね。

**小山**　公平とクリアをモットーに、そういうフラメンコのお宝たちを淀みなく交通整理出来れば、その輪はドンドン広がるはずだと。

**西田**　限りなく広がっていくためには、一緒にやる人を増やして行ける環境というのが大切だと思うんです。WEBの世界ならスペースは無限ですから、協働者それぞれが活きるようなスペースを作ることが可能です。

**小山**　うん、定量制限のない世界だからこそ出来ることだよね。だから定量制限のある紙媒体パセオフラメンコとしては、WEB全体を俯瞰しながら、これは！という人たちの言動を深く掘り下げて、そこをわかり易く明確に伝えながら記録したい。素晴らしい写真も含めて、紙媒体ならではの特性をフルに発揮したいんだ。

**西田**　内容の密度と保存性ですね。

**小山**　そう、すでに始めてるけどね、まあ、これは旧世代の最後の矜持みたいなもんだから。

**西田**　紙メディアと電子メディアが相互補完できるような状態をぜひ構築してください、よろしくお願いします。

**小山**　チェスでも将棋でも囲碁でもAIが人間の思考の本質に食い込んで来たこの時代、かつてのように経験値だけを重視する時代じゃない。新しい技術を知る若い世代が、かつての文化や経験値の優れたところを活かしながら、やはり自分らの力を頼りにぐいぐい押し進める時代だよね。

**西田**　明治維新の立役者たちの平均生存年齢も20代だって聞きました。

**小山**　うん、今の新しいシステムって、ある程度その技術を理解して動かせる人じゃないと、ヴィジョンや戦略を具体化することは難しい。

**西田**　すでにあるものを活かしながら、老若男女それぞれが得意の分野を担当するっていうのが現実的だし、同時に理想ですよね。いずれにしてもひとりの力では何も出来ないので、最初からそういうチームを育てていく方針で行きましょう。

**小山**　2030年まであと９年強だけど、そこが肝心なところだね。もちろんどんないいチームでも「２：６：２の法則」からは逃れられない宿命だけど。

**西田**　２：６：２の中心層（６）の人たちが、周囲のアフィシオナードたちから「やってくれてありがとう！」って感謝されるチームにしたいです。誰でも入れるチームだし、イベント時期は特に大変ですけど、楽しいし、希望が持てるし、みんなにありがとうって云われるのって人間一番うれしいことですから。そういう環境をいっぱい作って、逆に独裁主義･身内主義みたいなヒエラルキーは決して作らない。役職には任期があるけど、ボランティア精神ですそ野を広げるヴィジョンは次の世代に引き継いで、公平でありクリアであろうとする憲法は変えない。（６）の人たちが上の方の（２）を好ましく思えるチームですね。やっぱり否定ばかりの人はダメです。否定の中にも、こんなアイデアはどうですか？っていう改善案を出せない人はダメです。

**小山**　まあ、でも下の方の（２）は、人間組織にはどうしたって必要不可欠だから、ここにもいた方がいいよな。

**西田**　いた方がいいです、いないとダメです。

**小山**　でないと、もっと悪いのが入って来ちゃうから（笑）

**西田**（笑）ほんとそうです。組織ってほんとそうです。

**小山**　うっ、書きづれえなコレ（笑）まあ、下の方の領域はそういう経験値豊富なオレが担当すりゃ問題ねーか。

**西田**　……お願いします（笑）

## 「ねばならない」の終焉

**小山**　中学の修学旅行で行ったんだけど、むかし大阪万博ってのがあったじゃない。あの時のテーマが『人類の進歩と調和』でね、欧米あたりからものすごい批判があったんだ。進歩と調和は相容れないってね。進歩だったらリスクを抱えて進んでいくのが当たり前で、最初から事無かれ主義の調和を考えてたら少しも前進できないよって。

**西田**　日本的調和というのは、云ってみればみんなの顔色を窺いながら、まあまあまあ、って感じです。

**小山**　もちろん一長一短だけど、いろんなソンタク生んだり、何をやるにもグズグズしてたり、社会的弊害もたくさんあるね。管理人の直言実行のリーダーシップには合理的なスピード感があって、全体の流れがスッキリするんだよ。もちろんこれからいっぱい失敗もやらかすんだろうけどさ（笑）

**西田**　（笑）やります、やります、きっとやります。そういう意味では、日本のフラメンコはどちらかというと顔色を窺っている調和で、フラメンコってこういうものだって、その本質よりも本場の形だけをなぞっている感じを受けることも多いです。

**小山**　多くが「ねばならない」的な教条神話になってるんだな。

**西田**　はい、ねばならない……そうですね。フラメンコはWEB配信してはならない、生ライブでなくてはならない、ヒターノ的に生きねばならないとか……スペイン人的な何かを探求するところに集中し過ぎている感じがして、そこには違和感を感じます。一般人は

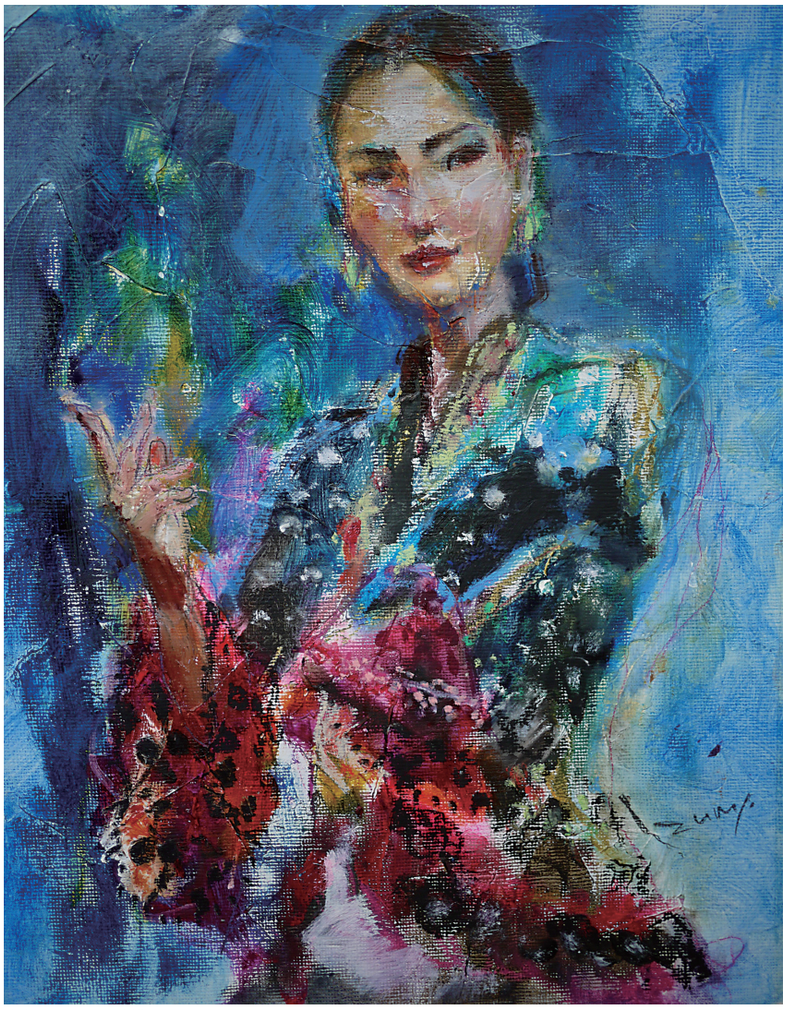
西田昌市Flamenco2030管理人（右）と小山雄二相談役

ヒキますね。衣装や化粧にもそれを感じることがあります。

**小山**　全体成長のある時期まではそれはとても重要なことなんだけど、それと、そういう本格志向は常に貴重な存在なんだけど、それ以外はすべてダメっていう風潮は日本人のポテンシャルを逆に殺すよね。フラメンコの根本精神とも矛盾すると思うんだ。

**西田**　ここにもあそこにも凄くいい感じの人がいる、フラメンコのすそ野を広げてくれそうな魅力的な人材がたくさんいる。そういうアーティストたちを埋もらせちゃダメですね。本格派オンリーのヒエラルキー(階層)は危険で、そういうピラミッド構造だとパイが大きくなっていかないどころか、やがては絶滅してしまう。2030プロジェクトは、いろんな方向性・可能性を殺さないように後押ししていくのが基本スタンスだと思うんです。

**小山**　なくなったアフィシオナードの巨匠・堀越千秋画伯もね、「あらゆる『ねばならない』からの解放がフラメンコ」って、いつも笑ってたよ。



大和田いずみ画伯描く、第一回フラメンコWEBフェスティバル・グランプリ受賞者・荒濱早絵

## 急ぐべきは顕彰システム！

**西田**　そういう意味でも、フラメンコの功労者や未来の担い手たちをまんべんなく表彰できるシステムは急ぎたいです。出来るだけオープンに透明度高く、公平で、誰もが納得できる顕彰。

**小山**　うん、それは急務かもしれない。まずは身内主義に陥らない透明なシステム創りだな。

**西田**　はい。技能が優秀な人にはコンクール的な顕彰を増やして、彼らが一般的なところで活躍しやすい状況を後押しすること。それと教授活動に功績のある先生方にもそれにふさわしい顕彰を、その他にもフラメンコの普及や発展に功績のある方々は、照明・音響の裏方さんまで、あらゆる角度から顕彰してゆく必要があると思うんです。

**小山**　偏らず、まんべんなく表彰する。

**西田**　だってそれだけのことを実際されているわけですから、それをやらないなんて逆におかしいです。フラメンコ2030の大きな使命だと思っています。すぐには全部出来ないにしても、出来るところから着手したいです。

**小山**　そこは君が当初から力説してた領域だな。一般社会に対するフラメンコ界の認知度を高めてゆく作業。実際に業界全体を活性化させる実効性は高いから、早めの推進には大賛成だよ。となりゃ、いよいよ2020サイトのもうひとつの目玉である『未来を創るアイデア広場』の出番だな。どんなふうな顕彰スタイルにするか、そこらへんは大々的にアイデアを公募して、まずは準備から念入りに進めていこう。

**西田**　そうしましょう。2021年以降のの大きな目標はこれですね。で、とにかく、フラメンコをやっている人にはWEBフェスやコンクールなどで多くの人に自分のプロフィールに加えられる賞をいっぱい創りたい。本格的なフラメンコが得意な人にはそういう賞を、すそ野を広げるのが得意な人にはそういう賞を。方向性はいろいろある中、実際的にすそ野を広げていくことって絶対的に価値のあることなので、そこをきちんと評価していくことに大きな意義を感じます。建前や形式論ではなく、そのこと自体がすそ野を広げることにも直接つながっていくからです。

**小山**　うん、まさしくミッション・ポッシブルの世界だな。

**西田**　すべて行き着くところは、すそ野が広がっていくこと、それが2030の役割だと思うんです。大切なのは、この先フラメンコ界すべての人が潤うということ、何とか続けていけるということ。だけどパイが少なかったら生き残っていけないんです。

**小山**　まずはその現実的な足場創りってことだな。それが実現できたら、次の世代による「Flamenco2040」がきっと立ち上がってくれるさ。

(2020年7月26日／東京・中野のパセオフラメンコ編集室にて収録)